

審議（会議）結果

審議会等名称 第 15 期第 4 回神奈川県生涯学習審議会

開催日時 令和 4 年 10 月 6 日（木）

開催場所 書面による協議

出席者【会長・副会長等】 ※五十音順

青木 信二（公募委員）
市川 さとし（神奈川県議会議員）
大田 裕多佳（一般社団法人神奈川県専修学校各種学校協会副会長）
大橋 昌行（一般社団法人神奈川県経営者協会人材活性化委員）
小野 晴子（公募委員）
上村 和彦（愛川町教育委員会生涯学習課長）
小池 茂子（聖学院大学教授）【副会長】
小番 奈緒美（神奈川県公立中学校長会書記）
小森 素好（神奈川県 P T A 協議会副会長）
鈴木 紀子（横浜国立大学男女共同参画推進センター准教授）
鈴木 眞理（青山学院大学教授）【会長】
夏井 美幸（神奈川県公民館連絡協議会会長）
萩原 建次郎（駒澤大学教授）
橋本 恵美子（神奈川県公立小学校長会副会長）
山田 信江（神奈川県社会教育委員連絡協議会理事）
山本 哲（神奈川県議会議員）

次回開催予定日 未定

所属名 担当者名 生涯学習課 湯本、沢、石田

掲載形式 議事概要

議事概要とした理由 書面開催のため

審議（会議）経過

1 議題 第15期神奈川県生涯学習審議会諮問事項

「神奈川県におけるこれからの家庭教育支援のあり方について」

2 結果

第15期生涯学習審議会 最終案の承認の是非を審議した。

承認（承認16名 不承認0名）

3 意見等

（委員氏名五十音順）

| 委員氏名 | 意見 |
|--------|--|
| 青木 信二 | 2期にわたりの審議、お疲れ様でした。 |
| 市川 さとし | 特にございませぬ。 |
| 大田 裕多佳 | 特にございませぬ。 |
| 大橋 昌行 | <p>「家庭教育支援のあり方について」という重要な課題について、地域、行政、学校、企業において、それぞれの立場での議論が出来たと思います。その中で、それぞれでの役割や課題など一定の整理が出来たものだと思います。支援する中で、何を求め、何を必要としているのかについて、それぞれの立場で出来る事の施策を更に考え、地域社会の一員として、実行していくことが重要なのだと考えます。</p> <p>家庭のあり方が多様化している（ひとり親家庭、低所得、外国籍、共働き家庭など）中で、地域、行政、学校、企業が一体となって家庭教育支援に取り組まなければならないと改めて考えさせられました。必要な支援についての情報発信もその一つなのだと考えます。また、支援するための法整備や制度設計など、多様化に合わせた施策が今後必要だと考えます。引き続き、企業の立場として誰もが働きやすく、豊かな家庭生活が送れるよう、ワークライフバランスを考えた制度づくりを模索していきたいと思ひます。</p> |
| 小野 晴子 | <p>第3章 提言には、事例紹介や市町村における取組状況調査もあり大変厚みのある内容だと感じました。また、参考資料の「論点整理」は心に残るものでした。</p> <p>答申最終案に関する意見ではありませんが、感想を追加させていただきます。</p> <p><参考資料> 1市町村における「家庭教育支援」「子育て支援」取組状況調査結果について(参資5~25) 中の「調査結果<実施事業一覧>」にある「事業名」の様々なネーミングから、サービスを提供</p> |

| | |
|--------|---|
| | <p>する側と提供される側の意識の微妙なギャップを感じました。自治体 が実施事業についてアナウンスする際は、対象者(保護者)が興味を持 つような分かり易い事業名称を期待するものです。</p> |
| 上村 和彦 | <p>細部にわたる表現、文言等の調整や委員からの意見をうまく調整し ていただき、完成度が非常に高く、内容が濃いものとなっております。 P5の「全国1位」⇒「全国で一番長く」 P7以降「・・・が不十分」⇒「・・・が少ない」 など、マイナ スイメージがダイレクトに伝わる表現から和らげる表現への変更は 必要と思いました。 P21 12～15行について、同感です。オンラインは、説明会などが 適していると思いますが、対面の会議では、意見だけでなく、参加者 の表情や場の雰囲気など、瞬時に認識することができ、こうした部分 もコミュニケーションの一部としますので議論を必要とする会議 は対面でと感じています。</p> |
| 小番 奈緒美 | <p>委員の方々の意見が反映されていてまとめられている。課題を共有 しつつ、学校教育の視点から支援できることを考えていきたい。</p> |
| 小森 素好 | <p>諮問に対応する答申の方向性案を意見交換するあたりから最終章 に至るまで参加させて頂き様々な団体、立場、役職の方たちと一緒に 「家庭教育支援のあり方」について議論を尽くしてただけに素晴らしい 最終案となっている。 答申の趣旨を理解し今後も神奈川県教育委員会と我々関係諸団体と が連携し家庭教育の支援を続けていきたい。</p> |
| 鈴木 紀子 | <p>答申案を拝見し、各委員の意見が文章の中に反映されていることを 確認いたしました。答申全体としての構成は、前回5月の審議会の時 の素案に比べて更に分かりやすくなり、読んで下さった方々に内容が きちんと伝わるのではないかと思います。審議会事務局の方々のこれ までのご尽力に深く感謝申し上げます。 コロナ禍の影響により、審議が難しい状況もありましたが、このよ うな形で答申にまとめることができ感慨深いものがあります。今後、 県内で家庭教育支援の取り組みを展開させていくには、様々な課題も あろうかと存じます。そのような時、この答申が何らかの手がかりと なることを願っております。</p> |
| 夏井 美幸 | <p>中身が凝縮され、事例・資料も充実した答申をまとめていただきあ りがとうございます。 コロナ禍で各自治体においても家庭教育支援を実施することも難 しい中でも、新たなコミュニケーションの方法で社会教育を止めない</p> |

| | |
|--------|---|
| | <p>よう事業を展開されておりました。この審議会においても P21「おわりに」もありましたが、オンライン配信の有用性がありつつも、社会教育の本質・対面で行う事の重要性についても記述していただき感謝申し上げます。</p> <p>個人的な意見ですが、目次の第 2 章 家庭教育に係る課題 → 「かかる」は、ひらがなの方が良いと思います。</p> <p>また、3 まとめ は⇒ 「課題のまとめ」にしてはいかがでしょうか。第 2 章のまとめではありますが、単にまとめより具体的に記述した方が良いと思いました。</p> <p>同様に P9 の 1 行目 「まとめ」も「課題のまとめ」と考えました。</p> |
| 萩原 建次郎 | <p>今回の答申を通して、県内各市町村の取り組み状況の把握を元に、子育て支援と家庭教育支援の重なりと違いが整理され、社会教育における家庭教育支援の課題が浮き彫りになったことは成果だと感じます。</p> <p>コロナ禍にあって、議事進行から答申案の取りまとめに至るまで、さまざまな困難があったと存じます。会長副会長はじめ、事務局の皆様大変お世話になりました。</p> |
| 橋本 恵美子 | <p>審議に出された意見をよく汲み取っていただき、答申に反映してくださっていると思います。ありがとうございました。</p> |
| 山田 信江 | <p>各委員からの貴重な意見が反映され答申最終案がよくまとまって完成されたと思います。</p> <p>※特に『おわりに』の追記が入り強調されたと感じます。</p> |
| 山本 哲 | <p>家庭教育支援は大変重要な課題と受け止めています。内容が整理されていて、良くまとめられていると思います。</p> |